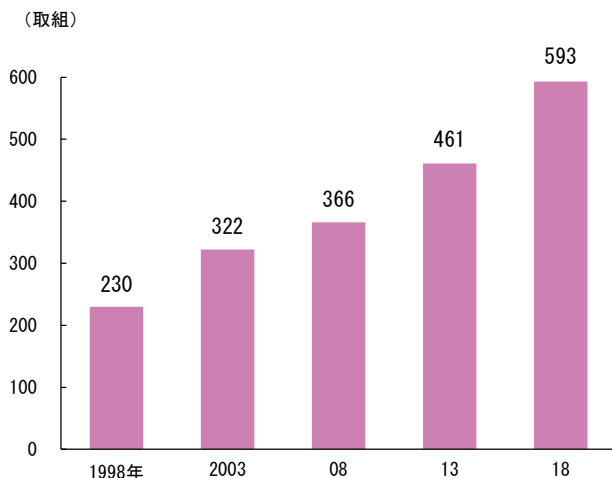


5 資源管理・漁場改善の取組

● 漁業管理取組数の推移(北海道)



広がる自主的な資源管理・漁場改善

2018年の漁業管理取組数は593で、2013年に比べて132(29%)増加しています。

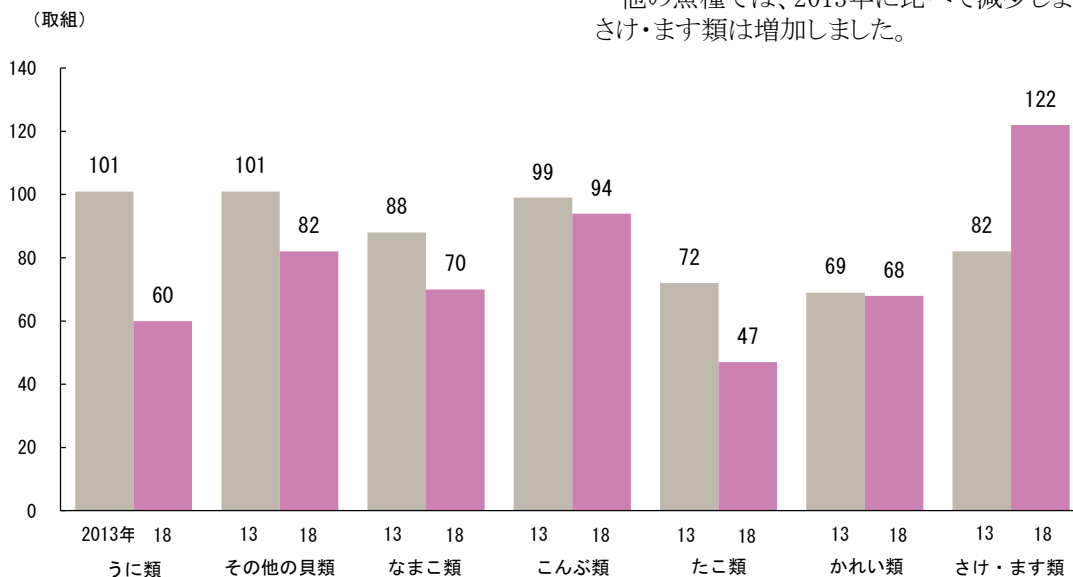
水産資源の回復・管理を推進するため漁業者による取組が確実に広がっています。

● 主な管理対象魚種別の取組数(北海道)

「さけ・ます類」が最も多い

管理の対象としている魚種別の取組数(2018年)は、さけ・ます類が最も高くなっています。

他の魚種では、2013年に比べて減少しましたが、さけ・ます類は増加しました。

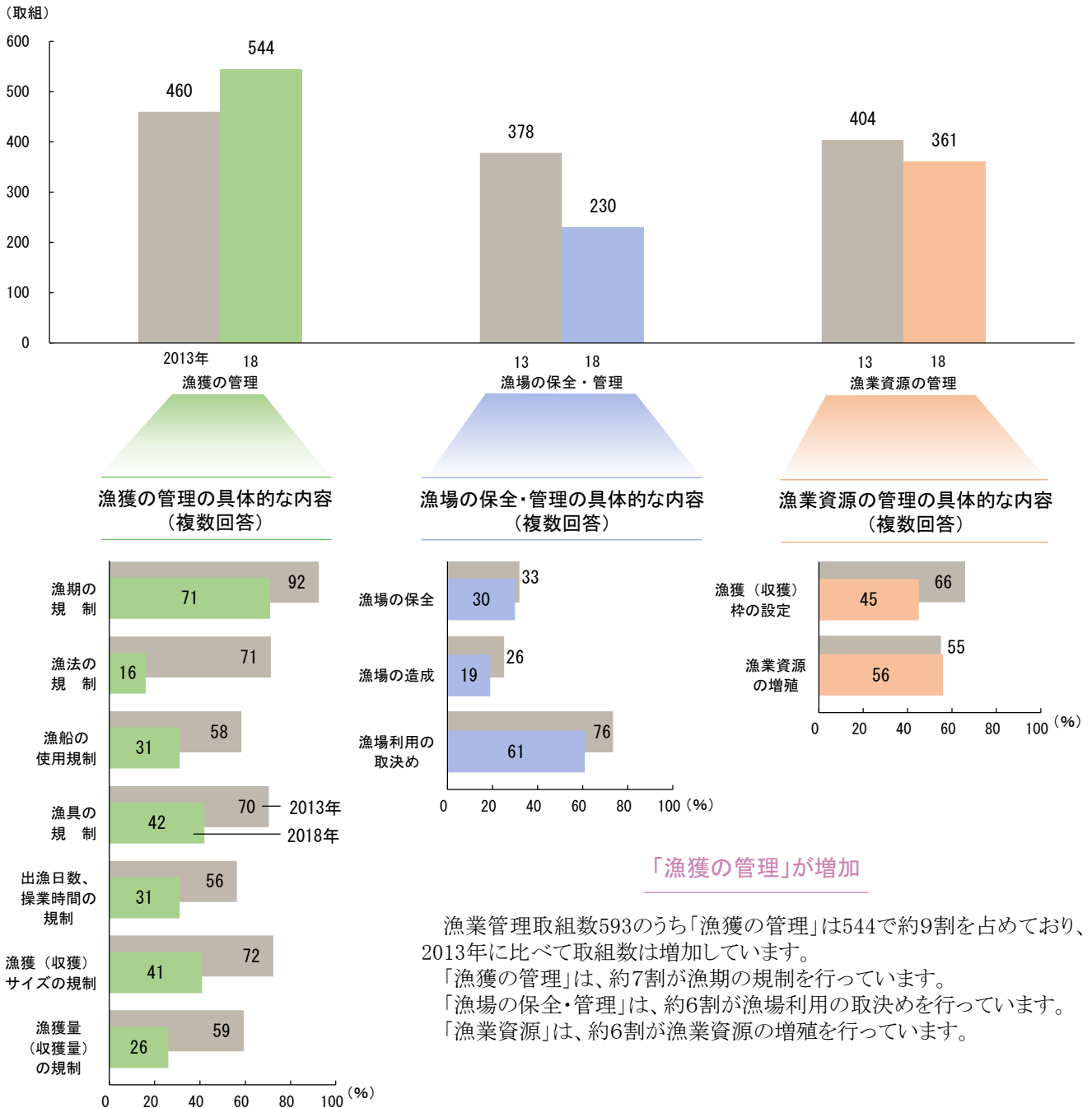


用語の解説

資源管理・漁場改善の取組…過去1年間(平成29年11月1日～平成30年10月31日)に漁業地区において漁業協同組合が行った資源管理計画、漁場改善計画に基づく取組または自主的な取組。

漁業地区…市区町村の区域内において、共通の漁業条件及び共同漁業権を中心とした地先漁業の利用等に係る社会経済活動の共通性に基づいて漁業が行われる地区。

● 漁業管理内容別取組数(北海道)



「漁獲の管理」が増加

漁業管理取組数593のうち「漁獲の管理」は544で約9割を占めており、2013年に比べて取組数は増加しています。

「漁獲の管理」は、約7割が漁期の規制を行っています。

「漁場の保全・管理」は、約6割が漁場利用の取決めを行っています。

「漁業資源」は、約6割が漁業資源の増殖を行っています。

● 主な水産エコラベル



資料:水産庁「水産エコラベルをめぐる状況について(令和2年1月)」